

2013年3月11日 東日本大震災から二年を数えての祈り

東日本大震災現地支援委員会 金丸 真（仙台北教会）

主なる神様、2011年3月11日午後2時46分に発生した東日本大震災から二年が経ちます。私たちは胸が締め付けられるような思いを抱きます。東日本大震災で失われた命は現時点で15,880名。そして現在も行方不明者2,698名の捜索は続いています。この数字は、神様、あなたが愛しておられる大切な命の数であり、その一人ひとりの人生には、家族も友人もおられます。地震、津波、原発事故によって沢山の人が命を失い、傷つき、住まいも生活も奪われ、今も奪われたままです。この震災によって東北地方沿岸部だけでなく、全国的に痛みを受けました。私もその一人です。

震災の風化が叫ばれています。しかしながら東北に住む私たちは、互いに震災の痛みを聴き合うたびに、何度も何度も被災している思いです。また原発事故によって、現在も被災し続けている方々がおられます。建物や住居、港の加工場やビニールハウスなどが建て直され、農地の除塩作業を終えても、放射能によって復興が遮られている現実があります。仮設住宅での生活、被災した家を直しての生活、移住を余儀なくされている生活の中で、悲しみや無力感、自責の思いや将来への不安が一向に消え去りません。「復興」の手応えが欲しい一方で、「復興」という言葉で区切りをつけられ、置いていかれ、忘れ去られるような不安を抱きます。復興のために「役に立つ」ことが第一とされ、「役に立たない」と判断された命は軽視され、時に人を指差し、時に自分の命の価値を見いだせなくなる時もあります。どうか十字架と復活の主の希望に私たちがしっかりと立つことができますように、小さな私たちを憐れんでください。

震災の痛みの中においても、主イエスの寄り添いと恵みがあつたことに改めて心から感謝いたします。あなたは、私たちに豊かな出会いを与えてくださり、被災した人も被災しなかった人も、互いに言葉を交わし、互いを受け入れ合い、労わり合う交わりをお与えくださいました。特にボランティアとして通う私たちを、被災された方々が受け入れてくださったことを思う時、そこに主イエスの執り成しを感じずにはられません。あなたの先立ちがなければ、私たちは何者でもありませんでした。さらにあなたは世界各国、日本全国の方々との出会いをお与えくださいました。どうかこれらの交わりがあなたによってさらに豊かにされ、私たちも現地と世界をつなぐ働きを全うできますようにと心から願います。

主よ、私たちは震災を通して、今まで見えなかった、あるいは見ようとしなかった出来事や人との出会いが与えられました。すでに震災前からこの世界に横たわっていた様々な痛み言葉に言葉を失いました。どうか「被災地」だからこそ知らされたこの世界の痛みのためにも、私たちの小さな器が用いられますように。

震災によって、私たち教会、信仰者は根底から問われました。福音とは、教会とは、伝道とは、主が私たちに語っておられることは何か、私たちが語ってきた言葉とは何か。私たちは、今、そのような問いと向き合う時が与えられています。しかしながら、今回の原発事故を通して人間の愚かさ罪を見せつけられ、「もうこんな思いは二度としたくない」「してはならない」と願っているにもかかわらず、わずか二年にしてその願いが踏みにじられようとしています。どうか私たちを、神の支配と神の義を求め、行動する主イエスの教会として立たせてください。この地にあつて、キリストの体なる群れとして立たせてください。

主よ、どうか憐れんでください。御許に召された命には深い平安を、悲しんでいる人には慰めを、落胆している人には希望を、泣いている人には笑いを、肩を落とす人には命の輝きを、頑張りすぎている人にはユーモアを、つながりが断ち切られた人には豊かな交わりを、被曝し続けている命とあらゆる被造物には癒しと守りを、人生に意味を見いだせなくなっている人には使命を、目に見えるものばかりに心が奪われる人には信仰を、めまぐるしく迫る日常の中で無関心になってしまう人には愛を、思い通りにいかない現実の中で苛立ちを覚える人には祈りを、震災で大切な絆が壊された人には和解を、どうかお与えください。

主よ、この地に創造の出来事を起こしてください。それぞれの人生に創造の出来事を起こしてください。

私たちを試みに遭わせず、悪からお救いください。

私たちの負い目を赦してください、私たちも自分に負い目のある人を赦しましたように。

私たちに必要な糧を今日与えてください。

あなたの御心になりますように、天におけるように地の上にも。

あなたの支配がきますように、天におけるように地の上にも。

どうか、あなたの御名があがめられますように、天におけるように地の上にも。

この小さき祈りを、私たちの主イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。

アーメン。